

「スポーツチャンバラとは」

スポーツチャンバラは武道であり、レクリエーションであり、生涯教育のスポーツです。

私たちが子供の頃、棒端を振り回して楽しんだ「チャンバラごっこ」は、ややもすると原始的闘争本能を発揮しやすくなる傾向にありました。この本能を人間的に制御する礼儀を取り入れたのが「スポーツチャンバラ」です。

スポーツチャンバラの考え方は、「自分の身は自分で護る」ことを第一に考え、「打つことより打たれないこと」を大切にしています。

最近、スポーツチャンバラは「スポチャン」と呼ばれながら多くの人達に親しまれつつありますが、この「スポチャン」は昭和46年に、護身道を指導していた現会長 田邊哲人(たべつと)先生により創設され、現在、国内の競技人口は20万人を越え、さらに海外においても年をおって理解者が増え、アメリカ・イギリス・フランス・イタリア・韓国・エジプト・オーストラリアなどにも普及し、「国際スポーツチャンバラ協会」が結成されるまでに成長しております。

使用する用具は、「エアーソフト」と称する柔らかい棒状の得物で、その中身は空気です。

防具としては、目を保護する面体だけを身につけるものです。

格闘技であるスポーツチャンバラは、礼儀と礼節を取り入れていることによって、お互いの人間性を高めていくものです。

大人も子どもも真剣勝負

やっぱり日本人はチャンバラが好き！そういう思いがするのにはこの「スポーツチャンバラ」を見れば分かります。

小さい頃、兄弟や友達同志で新聞紙を丸めお互いを打ち合った。そんな記憶がどこからともなく呼び戻されます。

日本には古来から剣道という武道がありましたが制約や細かなルールが多いため、一般的に誰でもがすぐ始められるといったものではありません。そこで考えだされたのが「スポーツチャンバラ」という格闘技。

道具はスポンジの小太刀や槍、あるいは長剣二刀などバラエティに富んでいます。

技術的には扇技、押技、回技などという打法とディフェンスの囲い技をマスターすれば楽しい競技ができる。

ルールも攻撃部分を制限するのは不自然という事でどこを攻撃しても良い事になっています。とはいえ、むやみにどこかしこを打ったからといって勝てるものでもありません。いかにスポンジでできた短い小太刀とはいえ卓越した競技者であれば、そのスピードは長い物を圧倒するという。ただ打たれた時の衝撃は少ないため年少者でも十分楽しめます。

この「スポーツチャンバラ」は現在15万人の会員を数え、全日本選手権大会や世界選手権大会が開催されており、これからも競技人口がもっと増えていきそうです。

大人になっても童心に帰って真剣勝負。

いや、子どもを差し置いても、のめりこみそう。そんなスポーツが「スポーツチャンバラ」といえます。